第 75 回結核予防全国大会決議文

2022 年の結核新登録患者数は 10,235 人、罹患率は人口 10 万対 8.2 になり、前年の 9.2 から更に低まん延化が進んだ。これは、結核対策が浸透してきたことに加えて、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）の影響による受診控え、健康診断の停滞、入国制限による外国出生者の減少等の関与も考えられる。わが国との交流が盛んな東南アジア等では結核がいまだまん延している状況を考慮すれば、今後、結核患者の増加が懸念される。

コロナの経験を踏まえ、今後わが国の結核根絶に向けて、患者の早期発見と確実な治療を実行するとともに、超高齢者・外国出生者等のハイリスクグループへの対策強化、低まん延状態に即した医療体制の再構築、革新的技術の研究・開発等を重点課題として取り組む必要がある。

世界では 2022 年に過去最多の 750 万人の患者が報告された。コロナの影響の解消と積極的な患者発見の努力の成果であるが、なおも WHO の推定患者数 1,060 万人の約 3 割が報告されていない。2023 年 9 月に開催された国連総会結核ハイレベル会合では、2030 年までの結核終息戦略の目標達成に向けて、対策の一層の推進とそのための資金の確保などを含む政治宣言が採択された。このため、薬剤耐性結核や潜在性結核感染症の診断・治療の強化、革新的技術の研究開発と早期導入が必要である。また、市民社会の関与や多様な関係機関が果たす役割の強化、コロナの経験を踏まえた感染症に強い医療システムの構築などあらゆる対策が求められている。

以上から、本大会は、国及び地方公共団体、医療機関及び結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の関係団体が力を合わせ、次の 4 項目について努力することを決議する。

一、日本における結核の根絶を目指して、超高齢者・外国出生者などのハイリスクグループに重点を置きつつ、予防啓発・早期発見、結核医療対策の更なる推進をすること。

一、コロナの経験も踏まえて、結核および呼吸器感染症への対策や、医療がより適切に実施されるように公衆衛生部門の強化及び感染症医療体制の再編を促すこと。

一、国連総会結核ハイレベル会合の政治宣言に基づき、世界の結核終息戦略の目標達成に向けて、革新的な技術開発とその普及に積極的に取り組むとともに、日本の結核対策の経験を活かした国際協力を一層推進すること。

一、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、関係団体と協力して結核および呼吸器感染症の予防のために、国民に対する正しい知識の普及・啓発を推進し、複十字シール運動をなお一層活性化すること。

令和 6 年 3 月 15 日
第 75 回結核予防全国大会